

**公立大学法人新潟県立看護大学の  
第2期中期目標期間終了時見込  
業務実績に関する評価結果**

**令和5年9月**

**新潟県公立大学法人評価委員会**



## 目 次

1	はじめに	1
2	評価（中間評価）の仕組み	2
3	評価結果	
(1)	全体評価結果	3
(2)	大項目別評価結果	5
4	参考	
◇	指標（数値目標）の達成度一覧	21
◇	公立大学法人新潟県立看護大学の中期目標期間終了時見込業務実績評価 （中間評価）実施要領	23
◇	新潟県公立大学法人評価委員会看護大学部会 委員一覧	29
◇	第2期中期目標期間終了時見込業務実績報告書	別添

## 1 はじめに

公立大学法人新潟県立看護大学は、新潟県における看護学教育・研究の中核的機関として、教育研究活動に励み、多様に変化する社会ニーズに柔軟に応じうる資質の高い看護人材を育成するとともに、その成果を絶えず地域社会に還元し、看護学の発展と保健・医療・福祉の向上に寄与することを目的とし、「高度な看護人材の供給と確保」、「地域課題の研究・発信」、「国内外の関係機関との連携」を基本方針に位置づけ、その達成に向けて取り組んでいる。

新潟県公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法に基づき、認証評価機関による評価結果を踏まえ、新潟県立看護大学の中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績に関する評価（中間評価）を行った。

第2期中期目標期間のうち、令和元年度から令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症の流行の波が繰り返し発生し、学校運営において様々な制約がある中、業務全般の着実な遂行と中期目標の達成を目指し、学長を中心に教職員一丸となって、社会情勢に応じた学修環境の更なる充実を図った。

今後も大学が社会的使命を果たすべく、当評価委員会が行う評価が、法人の自主的かつ継続的な業務運営の見直し・改善を促し、教育研究の質的向上、業務の効率化及び透明性の確保に資するとともに、次期中期目標及び中期計画の策定に活用されることを期待する。

令和5年9月

新潟県公立大学法人評価委員会 看護大学部会

部会長	成田一衛
委員	神代聡子
委員	高橋直美
委員	菱沼典子

## 2 評価（中間評価）の仕組み

### (1) 評価の根拠

地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）第 78 条の 2

### (2) 評価の対象

法人の第 2 期中期目標（平成 30 年 12 月指示。目標期間：平成 31 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日）の期間終了時に見込まれる達成状況

### (3) 評価の基準

公立大学法人新潟県立看護大学の中期目標期間終了時見込業務実績評価（中間評価）実施要領（令和 4 年 9 月 2 日新潟県公立大学法人評価委員会決定）

### (4) 評価の経緯

令和 5 年 6 月 28 日 法人から業務実績報告書の提出  
8 月 9 日 第 2 回看護大学部会開催（中項目別評価の審議）  
8 月 16 日 中項目別評価を法人に提示  
8 月 25 日 法人から中項目別評価案に対する意見の提出  
9 月 8 日 第 3 回看護大学部会開催  
（大項目別評価、全体評価の審議）  
評価書の確定

### 3 評価結果

#### (1) 全体評価結果

評価結果	中期目標の達成状況は『良好』となる見込みである
------	-------------------------

#### ア 評価理由

第2期中期目標期間である令和元（平成31）年度から令和4年度においては、理事長を中心とした機動的な運営体制の下、業務全般の安定した遂行と中期目標の達成を目指し、特に「教育」、「地域貢献・国際交流」及び「業務運営の改善及び効率化」の分野で、多くの実績が認められた期間であったと言える。

教育に関する事項では、学生確保に向けた積極的な取組により、厳しい外部環境下で学部学生の志願者を確保したことに加えて、学生の授業満足度が高いことや、国家試験合格率及び就職希望者の就職率が高水準を維持するなど、大学の使命である高度な看護人材の育成・輩出に、多くの実績が認められた。

地域貢献に関する事項では、県内看護職者を対象とした支援ニーズ調査を実施し、看護職学習支援公開講座をオンラインで開催するほか、上越地域の関係機関の新型コロナウイルス感染症にかかる協力要請に応じて、ワクチン接種や電話相談業務に学生が従事するなど、地域の保健・医療・福祉に大いに貢献した。

業務運営等に関する事項では、各種システムの導入や手続きの見直しによる業務効率化の推進など運営体制の改善に加えて、指定緊急避難所の開設や新型コロナウイルス疫学調査における教員派遣、村上市・関川村豪雨災害における保健相談活動の調整など、上越地域にとどまらず県内での災害支援に大きく貢献した。

本県の看護学教育・研究の中核的機関として、資質の高い看護人材を供給する役割が期待される中、最も重要となる「教育研究上の質の向上に関する事項」について、実績が多く認められた。

以上を総合的に勘案し、全体としては、「中期目標の達成状況は『良好』となる見込みである」と判断した。

法人においては、引き続き、中期目標の達成に向け、各種取組が行われることを期待する。

## イ 特筆すべき取組、顕著な成果

### 【教育研究上の質の向上に関する目標】

- 学部学生の志願者確保 【大項目 1 (No. 1)】
- 新型コロナウイルス感染症の影響下における実習施設との連携や、臨地実習停止となった学生への対応 【大項目 1 (No. 3)】
- 教育の質の向上への取組と学生の授業満足度の高さ 【大項目 1 (No. 3)】
- 国家試験合格率の高水準 【大項目 1 (No. 4)】
- 研究実施体制の整備に向けたニーズ把握と取組の強化 【大項目 2 (No. 6)】
- 県内看護職者のニーズに対応したリカレント教育の実施 【大項目 3 (No. 7)】
- 新型コロナウイルス感染症対応に係る関係機関との連携による地域貢献 【大項目 3 (No. 7)】

### 【業務運営に関する目標】

- 公益通報窓口を学内・学外に設置 【大項目 4 (No. 10)】
- 各種システムの導入、手続きの見直しによる業務効率化の推進 【大項目 4 (No. 10、12)】
- 業者との調整や国補助金の活用により、経費削減に努めながら施設の効率的整備を実施 【大項目 5 (No. 15)、大項目 7 (No. 19)】
- ホームページアクセス件数の高水準など情報発信の推進 【大項目 6 (No. 17)】
- 県内の災害対応への貢献 【大項目 7 (No. 20)】

## ウ 主な課題・改善点、今後に向けた提言・期待

- 大学院における社会人学生の確保に向けた対応 【大項目 1 (No. 1)】
- 研究活動の活性化と研究水準の向上 【大項目 2 (No. 5、6)】
- 国際交流活動の活性化 【大項目 3 (No. 9)】

## エ 項目別評価結果一覧

全体評価	大項目別評価		中項目別評価	
良好となる見込み	1 教育に関する事項	A 良好 となる見込み	(No.1) 学生の確保	b 中期計画の達成状況は概ね良好となる見込みである
			(No.2) 教育の内容	a 中期計画の達成状況は良好となる見込みである
			(No.3) 教育の実施体制	a 中期計画の達成状況は良好となる見込みである
			(No.4) 学生への支援	a 中期計画の達成状況は良好となる見込みである
	2 研究に関する事項	B 概ね良好 となる見込み	(No.5) 研究水準及び成果等	b 中期計画の達成状況は概ね良好となる見込みである
			(No.6) 研究実施体制の整備等	a 中期計画の達成状況は良好となる見込みである
	3 地域貢献・国際交流に関する事項	A 良好 となる見込み	(No.7) 地域社会ニーズへの対応	a 中期計画の達成状況は良好となる見込みである
			(No.8) 地域社会との連携	a 中期計画の達成状況は良好となる見込みである
			(No.9) 国際交流	b 中期計画の達成状況は概ね良好となる見込みである
	4 業務運営の改善及び効率化に関する事項	A 良好 となる見込み	(No.10) 運営体制の改善	a 中期計画の達成状況は良好となる見込みである
			(No.11) 人事の適正化	a 中期計画の達成状況は良好となる見込みである
			(No.12) 事務の効率化・合理化	a 中期計画の達成状況は良好となる見込みである
	5 財務内容の改善に関する事項	B 概ね良好 となる見込み	(No.13) 自己収入の増加	b 中期計画の達成状況は概ね良好となる見込みである
			(No.14) 経費節減	b 中期計画の達成状況は概ね良好となる見込みである
(No.15) 資産の運用管理の改善			a 中期計画の達成状況は良好となる見込みである	
6 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する事項	B 概ね良好 となる見込み	(No.16) 自己点検・評価の実施	a 中期計画の達成状況は良好となる見込みである	
		(No.17) 情報公開の推進	b 中期計画の達成状況は概ね良好となる見込みである	
7 その他業務運営に関する事項	B 概ね良好 となる見込み	(No.18) 法令遵守の推進	b 中期計画の達成状況は概ね良好となる見込みである	
		(No.19) 施設の効率的整備	a 中期計画の達成状況は良好となる見込みである	
		(No.20) 危機管理	s 中期計画の達成状況は優れたものとなる見込みである	
		(No.21) 人権の保護	b 中期計画の達成状況は概ね良好となる見込みである	
		(No.22) 情報セキュリティ対策	b 中期計画の達成状況は概ね良好となる見込みである	

## (2) 大項目別評価結果

大項目1 教育に関する目標	
評価結果	A：中期目標の達成状況は『良好』となる見込みである
<b>ア 評価理由</b> <p>学部については、18歳人口の減少や近隣県・県内における看護系大学の新設といった厳しい環境に加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大により様々な活動が制限されたが、高校生等のニーズに応じた積極的な入試広報活動を通じて、志願者を確保していることは評価できる。</p> <p>大学院については、社会人学生が受講しやすい学習環境を整備してきたが、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響で病院の看護体制の維持が懸念される状況が続いたことから、職場を優先し大学院進学を先延ばしにする傾向が見受けられ、前・後期課程ともに入学者数は募集定員に満たない結果となった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響下においても、遠隔授業の実施や早期の対面授業への切り替え、実習施設との連携による臨地実習の実施や、実習停止となった学生への個別対応など、教育の質の維持に努めた。また、学生の要望を取り入れた学習環境の整備を進めており、学生の授業内容満足度は期間を通して高水準を維持した。</p> <p>国家試験合格率は助産師では10年連続で100%を達成するとともに、看護師では期間を通じて全国平均を上回る高水準を維持している。</p> <p>これらの実績を評価し、教育に関する目標の達成状況は、「良好」となる見込みであると判断した。</p> <p>今後も、大学院の志願者の確保は非常に難しい状況が続くが、引き続き修学環境の充実に力を入れ、期間内に取組の効果がみられることを期待したい。また、次期中期計画における学部の志願倍率の目標設定については、検討課題としたい。</p>	

### イ 中項目別評価結果

#### (No.1) 学生の確保【b：中期計画の達成状況は概ね良好となる見込みである】

学部については、18歳人口の減少や近隣県・県内における看護系大学の新設といった厳しい環境下で、新型コロナウイルス感染症の拡大を機に、オンラインによるオープンキャンパスや個別相談会を実施し、また、対面型オープンキャンパスの再開後も、参加者のニーズに応じて、オンデマンドによるオープンキャンパスを継続して実施した。加えて、大学見学受け入れ・出前講義・高校訪問・進学相談会を増やしてきた。これらの積極的な広報活動を通じて、志願者を確保したことを評価する一方で、志願倍率は令和3年度を除き目標を下回っている。今期の目標値が高過ぎる可能性も考えられるため、今後の検討課題としたい。

大学院については、遠隔授業の定着や一日集中型にするための時間割の編成、特定の曜日に授業を集中させた体制の構築など、社会人学生が受講しやすい学習環境を整備してきたが、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響で病院の看護体制の維持が懸念される状況が続いたことから、職場を優先し大学院進学を先延ばしにする傾向が見受けられ、前・後期課程ともに入学者数は募集定員に満たない結果となった。志願者の確保は非常に難しい状況であるが、大学院説明会の参加者には回復の傾向がみられるので、引き続き定員充足に取り組まれ、期間内に取組の効果がみられることを期待する。

## **(No.2) 教育の内容 【a：中期計画の達成状況は良好となる見込みである】**

学部においては、新型コロナウイルス感染症に対応し、直ちに遠隔授業を開始するとともに、状況に応じて早期の対面授業の再開や対面とオンラインによる授業の併用を行うなど、柔軟に対応した。加えて、実習施設の受入人数が限られる中、実習施設との連携を強化し、臨地実習を実現させるとともに、実習停止対応となった学生に個別対応するなど、新型コロナウイルス感染症発生以降、状況を見極めながら教育の質を維持したことを評価する。

大学院においては、博士前期課程及び博士後期課程における教育課程の見直しを行い、論文博士学位授与制度を創設した。また、博士前期課程助産師コースの設置や、より専門的・多角的な観点からの博士論文指導を行うことを目的として、大学院博士後期課程の専門分野を7分野から4分野に集約し論文指導の充実等を図るなど、それぞれ令和6年度からの運用に向けて準備を進めた。

令和元年度、新潟県より受託した「専門性の高い看護職員の育成検討会」において県内看護系大学のCNS教育課程の設置状況等の調査を行い、令和2・3年度には、県内看護系大学が専門性の高い看護職員の育成について意見交換会を行った。引き続き県内看護職の質向上の取組に積極的に取り組まれない。

## **(No.3) 教育の実施体制 【a：中期計画の達成状況は良好となる見込みである】**

学部においては、実習施設の臨床講師・実習指導者と大学教員の実習懇談会や、看護師養成校との実習に関する調整会議など、実習における感染予防対策に関する意見交換を行うとともに、より学生の希望に添った実習配置が可能となるよう、希望調査等に基づき、実習施設との調整を行った。

大学院生のCNS実習について、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、実施場所や実施時期を変更するなど調整しながら実施した。学部、大学院とも、新型コロナウイルス感染症の影響下における臨地実習実施へ向けた調整及び実習停止になった学生への個別対応を評価する。

学生生活実態調査のアンケート結果及び学生との意見交換会で寄せられた意見を踏まえ、レセプションホール・自習室・図書館を自習環境の観点から整備した。また、遠隔授業の実施に向けて大学建物内ほぼ全域でWi-Fiを使用できる環境を整備するとともに、飛散防止板を設置するなど、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した学習環境を整備した。新型コロナウイルス感染症を機に学習環境の整備を進め、変化するニーズに対応したことを評価する。

令和3年度に新潟県立看護大学図書館、上越教育大学附属図書館及び上越市立図書館と、図書館資料の相互貸借や各所蔵資料の交換展示を行う等により、地域の教育・文化活動の発展に資することを目的とする協定を三者間で締結し、令和4年度から事業を開始した。

学生の授業内容満足度は、期間を通して目標値を上回る高水準を維持した。引き続き、学部・大学院において学生の希望に沿った実習が可能となるよう、実習施設の確保や調整に努められない。

#### (No.4) 学生への支援 【a：中期計画の達成状況は良好となる見込みである】

学生生活に対する支援については、令和元年度から1～3学年の学年担任を増やし、学生全員の個別面談・学習状況の把握等を行うなど体制を強化した。また、新型コロナウイルス感染症の影響により困窮した学生に対して実施される日本学生支援機構の奨学金や緊急給付金について、学生へ情報提供を行い、令和2年度には本学独自措置として、前期授業料納付期限延長及び3年次生を対象とした助成金給付を行った。

キャリア支援については、国家試験対策講義や個人面談による学習指導を重ねた結果、助産師国家試験の合格率は10年連続で100%を達成するとともに、看護師の合格率は期間を通じて全国平均を上回る高水準を維持した。保健師の合格率は、令和4年度を除いて全国平均を上回っており、前中期目標期間と比較しても合格率は上昇するなど、きめ細かく学習支援を行っていることがうかがわれる。令和5年度以降、保健師選抜制の導入の効果にも期待する。

専門看護師資格審査については、大学院のCNS養成課程修了生に勉強会等を開催して支援し、4年間で老人看護5名及びがん看護4名が専門看護師認定審査に合格するなど、継続的に合格者を輩出してきた。

期間中、就職希望者の就職率は令和2年度の98.9%を除いて100%を達成し、また、県内就職率は令和元年度を除き目標値を概ね達成した。学年別に学生のニーズに応じたキャリアガイダンスを実施しながら、県内を中心に数多くの学生を看護の分野に送り出してきたことを評価する。引き続き県内就職率の向上に努められたい。

【参考】

年度評価における「教育」に関する中期計画の進捗状況評価

R1	R2	R3	R4
A	A	A	A

(進捗状況評価基準)  
 S：優れて順調、A：順調、B：概ね順調  
 C：やや遅れている、D：遅れている

指標（数値目標）の進捗状況一覧

中項目	指 標	目標値/実績値/達成度[達成率]					
		R1	R2	R3	R4		
(No.1) 学生の確保	No. 2 志願倍率	目標値	4.3倍	4.3倍	4.3倍	4.3倍	
		実績値	4.1倍	3.1倍	8.3倍	3.8倍	
		達成度	○ [95.3%]	△ [72.1%]	◎ [193.0%]	○ [88.4%]	
(No.3) 教育の実施体制	No. 3 学生の授業内容満足度 (5段階評価の平均)	目標値	4.2点	4.2点	4.2点	4.2点	
		実績値	4.6点	4.3点	4.4点	4.5点	
		達成度	◎ [109.5%]	◎ [102.4%]	◎ [104.8%]	◎ [107.1%]	
(No.4) 学生への支援	No. 1 国家試験合格率 ※ ○概ね達成(全国平均値以上~100%未満)	看護師	目標値	100%	100%	100%	100%
			実績値	100%	99.0%	100%	97.9%
			達成度	◎ [100%]	○ [99.0%]	◎ [100%]	○ [97.9%]
		保健師	目標値	100%	100%	100%	100%
			実績値	96.4%	97.8%	97.5%	96.6%
			達成度	○ [96.4%]	○ [97.8%]	○ [97.5%]	△ [96.6%]
	助産師	目標値	100%	100%	100%	100%	
		実績値	100%	100%	100%	100%	
		達成度	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	
	No. 4 就職希望者の就職率	目標値	100%	100%	100%	100%	
		実績値	100%	98.9%	100%	100%	
		達成度	◎ [100%]	○ [98.9%]	◎ [100%]	◎ [100%]	
No. 5 新卒者(全学)の県内就職率	目標値	69%	69%	69%	69%		
	実績値	50.6%	66.7%	59.3%	63.7%		
	達成度	△ [73.3%]	○ [96.7%]	○ [85.9%]	○ [92.3%]		
No. 5 新卒者(県内出身)の県内就職率	目標値	85%	85%	85%	85%		
	実績値	61.1%	77.9%	68.7%	79.5%		
	達成度	△ [71.9%]	○ [91.6%]	○ [80.8%]	○ [93.5%]		

\* 指標の達成度 = ◎達成(100%以上) ○概ね達成(80%以上~100%未満) △やや遅れている(60%以上~80%未満) ▲遅れている(60%未満)

## 大項目2 研究に関する目標

### 評価結果

**B：中期目標の達成状況は『概ね良好』となる見込みである**

#### ア 評価理由

Researchmap への登録推進や、セミナーへの参加推進、平成 30 年度に構築したコンサルテーションシステムを本格始動し若手研究者への学習機会の提供、英語論文投稿支援制度の創設など、科学研究費獲得に向けて教員のニーズを把握し、様々な組織的支援策を講じてきたことは評価される。

その一方で、著書件数や論文件数、学会報告件数については、期間を通して目標値に達しなかった。新型コロナウイルス感染症の影響下、教育の質の維持が最優先課題であったことや、学会の中止による報告の機会の減少など外的要因が大きく影響していると考えられるものの、大学が組織的・継続的に研究活動の支援環境を整備してきたことが、研究水準の向上及び成果に繋がったとは必ずしも言えないことから、引き続き、研究支援体制の整備に取り組まれない。

これらの状況を総合的に評価し、研究に関する目標の達成状況は、「概ね良好」となる見込みであると判断した。

今後、Researchmap のさらなる充実など、引き続き研究水準の向上及び成果に結びつくよう、より一層の取組を期待する一方で、次期中期計画における研究指標の目標設定については、検討課題としたい。

#### イ 中項目別評価結果

##### (No.5) 研究水準及び成果等【b：中期計画の達成状況は概ね良好となる見込みである】

論文の被引用件数は期間を通して目標値を上回り、かつ令和 3 年度、令和 4 年度は継続して高水準を維持した。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響下、早期の学内実習から臨地実習への復帰など教育の質の維持が最優先課題であり、また、学会の中止により報告の機会も減少するなどの外的要因により、著書件数や論文件数、学会報告件数については目標値に達しなかった。論文件数等の増加に繋がるよう、より一層の取組を期待する一方で、今期中期計画の目標値が高過ぎる可能性も考えられるため、今後の検討課題としたい。

外部研究資金の採択数や採択率の向上に向け、国内外の研究者との共同研究の促進を図るため、教員に対して Researchmap への登録を促した。また、研究計画立案と洗練に向けた個別指導や若手教員を対象に助言を行う集団指導の実施、教員を対象に実施したアンケート調査のニーズ結果を踏まえた英語論文投稿支援制度の運用など、教員の研究活動について継続的にサポートを行った。

Researchmap へのリンクは有用な情報発信ツールであるが、教員によっては研究や取組に関する情報が記載されていない場合があるため、さらなる充実を期待する。

## (No.6) 研究実施体制の整備等【a：中期計画の達成状況は良好となる見込みである】

Researchmap への登録推進や、セミナーへの参加推進、平成 30 年度に構築したコンサルテーションシステムを本格始動し若手研究者への学習機会の提供、英語論文投稿支援制度の創設など、科学研究費獲得に向けて教員のニーズを把握し、様々な組織的支援策を講じてきたことは評価される。こうした取組を通じて、外部研究資金獲得件数は期間を通して目標値を上回った。外部研究資金申請件数は目標値を下回っているが、申請可能者の申請率は毎年度 80%を超える高水準であることから、法人の活動を適正に評価できるよう、次期中期目標期間においては指標を検討する必要がある。

こうした取組を含め、大学では組織的・継続的に研究活動の支援環境を整備してきているが、期間中において、研究水準の向上及び成果に結びついていない指標もあることから、引き続き、研究支援体制の整備に取り組まれない。

### 【参考】

#### 年度評価における「研究」に関する中期計画の進捗状況評価

R1	R2	R3	R4
B	B	B	B

(進捗状況評価基準)

S：優れて順調、A：順調、B：概ね順調  
C：やや遅れている、D：遅れている

#### 指標（数値目標）の進捗状況一覧

中項目	指標	目標値/実績値/達成度[達成率]				
		R1	R2	R3	R4	
(No.5) 研究水準及び成果等	No. 6 著書件数	目標値	10件	10件	10件	10件
		実績値	7件	6件	12件	7件
		達成度	△ [70.0%]	△ [60.0%]	◎ [120.0%]	△ [70.0%]
	No. 7 論文件数	目標値	72件	72件	72件	72件
		実績値	57件	49件	43件	48件
		達成度	△ [79.2%]	△ [68.1%]	▲ [59.7%]	△ [66.7%]
	No. 7 論文（査読付き）件数	目標値	65件	65件	65件	65件
		実績値	51件	42件	37件	40件
		達成度	△ [78.5%]	△ [64.6%]	▲ [56.9%]	△ [61.5%]
	No. 8 学会報告件数	目標値	123件	123件	123件	123件
実績値		121件	97件	70件	84件	
達成度		○ [98.4%]	△ [78.9%]	▲ [56.9%]	△ [68.3%]	
No. 9 論文の被引用件数等	目標値	33件	33件	33件	33件	
	実績値	37件	70件	100件	91件	
	達成度	◎ [112.1%]	◎ [212.1%]	◎ [303.0%]	◎ [275.8%]	
参考 大学における研究発表会の開催件数	目標値	4件	4件	4件	4件	
	実績値	4件	1件	5件	5件	
	達成度	◎ [100.0%]	▲ [25.0%]	◎ [125.0%]	◎ [125.0%]	
(No.6) 研究実施体制の整備等	No.10 外部研究資金申請件数	目標値	35件	35件	35件	35件
		実績値	32件	26件	19件	17件
		達成度	○ [91.4%]	△ [74.3%]	▲ [54.3%]	▲ [48.6%]
	No.10 外部研究資金獲得件数	目標値	20件	20件	20件	20件
		実績値	21件	24件	29件	27件
		達成度	◎ [105.0%]	◎ [120.0%]	◎ [145.0%]	◎ [135.0%]

\* 指標の達成度 = ◎達成（100%以上） ○概ね達成（80%以上～100%未満） △やや遅れている（60%以上～80%未満） ▲遅れている（60%未満）

### 大項目3 地域貢献・国際交流に関する目標

#### 評価結果

**A：中期目標の達成状況は『良好』となる見込みである**

#### ア 評価理由

看護職へのリカレント教育について、看護職学習支援公開講座をオンラインにより開催したこと、インターネットを利用した学習支援サイト（どこでもカレッジプロジェクト）への動画教材の公開を進めたことは評価できるものであり、今後の拡充に期待する。

また、新型コロナウイルス感染症に係る関係機関からの協力要請に応じて、ワクチン接種や電話相談業務に従事するなど、各種事業に積極的に取り組んだ。

感染症対策を講じながら研究発表会を実施し、上越地域における看護の連携と質の向上を図ったことや、毎年法人教員を県立中央病院及び魚沼基幹病院に教育アドバイザー等として派遣するなど、継続的に地域ニーズに貢献し、地域社会との連携を図った。

国際交流については、新型コロナウイルス感染症の影響により海外実地研修が実施できず代替企画等にとどまっていたものの、令和4年度に万全を期して4年ぶりに海外実地研修を実施したことは評価できる。

これらの実績を評価し、地域貢献・国際交流に関する目標の達成状況は、「良好」となる見込みであると判断した。

大学の特色を活かした地域貢献や、看護職へのリカレント教育のオンライン化など、これまでの積極的な取組は評価できるものであり、今後のさらなる拡充に期待する。

#### イ 中項目別評価結果

##### (No.7) 地域社会ニーズへの対応【a：中期計画の達成状況は良好となる見込みである】

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年度は看護研究交流センターが実施する市民公開講座の中止をはじめ様々な活動を控えたが、令和3年度以降は感染症対策を十分行った上で、活動を順次再開した。

看護職へのリカレント教育について、令和元年度の調査でニーズの高かった看護職学習支援公開講座をオンラインにより開催したこと、インターネットを利用した学習支援サイト（どこでもカレッジプロジェクト）への動画教材の公開を進めたことは評価できるものであり、県内の看護職が抱える課題解決に向け、今後の拡充に期待する。

また、令和3年度には、上越市・妙高市からの新型コロナワクチン接種にかかる協力要請に対し、延べ500人程度の学生がワクチン接種会場において、来場者の誘導・衣服着脱介助等に従事し、令和4年度には、上越保健所の協力要請に応え、新型コロナウイルス感染症に係る電話相談業務に学生が従事するなど、大学の特色を活かした地域貢献に取り組んだ。引き続き、地域住民等との交流促進に向け、各種事業に積極的に取り組んでいただきたい。

##### (No.8) 地域社会との連携【a：中期計画の達成状況は良好となる見込みである】

地域課題研究発表会及び上越地域看護研究発表会において、会場参加とオンラインを併用するなど、感染症対策を講じながら実施し、上越地域における看護の連携と質の向上を図った。

また、教員の行政・医療機関等への派遣を積極的に行い、「研究指導等講師派遣数」及び「審議会等委員委嘱数」は、令和2年度を除き、目標値を概ね達成している。毎年法人教員を県立中央病院及び魚沼基幹病院に教育アドバイザー等として派遣していることは、継続的に地域ニーズに貢献し、連携を図っているものとして評価する。

今後も大学の特色を活かし、看護職者の教育・研修活動等を推進していくことを期待したい。

**(No.9) 国際交流【b：中期計画の達成状況は概ね良好となる見込みである】**

令和元年度は、マレーシアで国際アルツハイマー病協会によるアジア太平洋地域会議が開催され、学生2名と引率教員1名が参加し、日本の若者の認知症に関わる取組を学生が発表した。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響下、実施できなかった海外実地研修の代替企画として、上越市在住の外国籍住民の協力のもと、臨床看護英会話を用いた看護実技のシミュレーション演習を行った。

令和4年度は、クライストチャーチ工科大学（Ara）とオンライン交流会を行い、コロナ禍におけるお互いの国の状況について理解を深めた。また、Araとの国際交流協定に基づく2週間のニュージーランド看護研修は、5回の事前研修を経て、学生5名と引率教員1名が渡航し、看護英語クラス受講、保健医療施設見学、看護学演習参加、ホームステイ等を行った。留学生危機管理サービス「OSSMA」を新たに導入し、併せて感染症を含む危機事象に対する危機管理対策マニュアルを改訂するなど、万全を期して4年ぶりに海外実地研修を実施したことは評価できる。

今後、包括交流協定締結先との交流や、相手校からの学生の受け入れについて検討するなど、国際交流活動への学生・教員の参画を促進されたい。

**【参考】**

**年度評価における「地域貢献・国際交流」に関する中期計画の進捗状況評価**

R1	R2	R3	R4
A	B	A	A

(進捗状況評価基準)  
 S：優れて順調、A：順調、B：概ね順調  
 C：やや遅れている、D：遅れている

**指標（数値目標）の進捗状況一覧**

中項目	指標	目標値/実績値/達成度[達成率]				
		R1	R2	R3	R4	
(No.7) 地域社会ニーズへの対応	No.11 公開講座（開催件数）	目標値	25回	25回	25回	25回
		実績値	21回	-	14回	16回
	達成度	○ [84.0%]	[-]	▲ [56.0%]	△ [64.0%]	
	No.11 公開講座（聴講者数）	目標値	1,720人	1,720人	1,720人	1,720人
		実績値	1,685人	-	774人	805人
達成度	○ [98.0%]	[-]	▲ [45.0%]	▲ [46.8%]		
No.11 公開講座（満足度） （5段階評価の上位2位の割合）	目標値	89%	89%	89%	89%	
	実績値	88.8%	-	79.6%	84.4%	
達成度	○ [99.8%]	[-]	○ [89.4%]	○ [94.8%]		
No.15 マスメディアに取り上げられた件数 （新聞掲載数）	目標値	210件	210件	210件	210件	
	実績値	281件	268件	226件	218件	
達成度	◎ [133.8%]	◎ [127.6%]	◎ [107.6%]	◎ [103.8%]		
No.12 看護職リカレント教育登録者数	目標値	19人	19人	19人	19人	
	実績値	45人	4人	18人	26人	
達成度	◎ [236.8%]	▲ [21.1%]	○ [94.7%]	◎ [136.8%]		
(No.8) 地域社会との連携	No.13 研究指導等講師派遣数	目標値	81人	81人	81人	81人
		実績値	95人	62人	67人	80人
	達成度	◎ [117.3%]	△ [76.5%]	○ [82.7%]	○ [98.8%]	
	No.14 審議会等委員委嘱数	目標値	47人	47人	47人	47人
		実績値	42人	43人	57人	49人
達成度	○ [89.4%]	○ [91.5%]	◎ [121.3%]	◎ [104.3%]		
No.16 臨床現場・行政機関と人事交流を行う人数（2年以上の者）	目標値	1人	1人	1人	2人	
	実績値	1人	1人	1人	2人	
達成度	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]		
(No.9) 国際交流	No.17 海外大学との交流提携校数	目標値	調査検討	調査検討	調査検討	調査検討
		実績値	-	-	-	-
	達成度	[-]	[-]	[-]	[-]	
	No.18 海外大学との交流人数（学生）	目標値	6人	6人	6人	6人
		実績値	2人	-	-	7人
達成度	▲ [33.3%]	[-]	[-]	◎ [116.7%]		
No.18 海外大学との交流人数（教員）	目標値	3人	3人	3人	3人	
	実績値	2人	-	-	4人	
達成度	△ [66.7%]	[-]	[-]	◎ [133.3%]		

\* 指標の達成度 = ◎達成（100%以上） ○概ね達成（80%以上～100%未満） △やや遅れている（60%以上～80%未満） ▲遅れている（60%未満）

## 大項目4 業務運営の改善及び効率化に関する目標

### 評価結果

**A：中期目標の達成状況は『良好』となる見込みである**

#### ア 評価理由

新型コロナウイルス感染症に対しては、新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、状況に応じて機動的な対応を行った。また、学内・学外における公益通報窓口の設置や、内部監査の実施時期を早め、年度内に監査結果を反映させるよう見直すなど、経営課題を各組織で共有し、継続的・機動的に対応している。限られた経営資源の下、学生、卒業生、教員や地域のニーズに対応し、柔軟に組織運営しているものと評価する。

教員については、年間を通じた公募により、毎年度、全ての科目群に教員の適正配置が行われていることに加えて、業績評価及び業績による研究費の追加配分を行うなど、人材確保と大学組織の活性化を図ったといえる。

事務局職員については、計画的な採用を行い、さらに、職員体制の向上に向けて計画的に研修の参加や事務局内異動を推進した結果、事務局の学生対応に関する学生満足度は、毎年度目標を上回り達成した。また、各種システムの導入や手続きの見直しにより事務の効率化を図っていることは評価できる。

これらの実績を評価し、業務運営の改善及び効率化に関する目標の達成状況は、「良好」となる見込みであると判断した。

引き続き、業務運営の一層の改善に取り組みたい。

#### イ 中項目別評価結果

##### (No.10) 運営体制の改善【a：中期計画の達成状況は良好となる見込みである】

新型コロナウイルス感染症に対し、理事長をトップとする、新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、遠隔授業導入チームを立ち上げるなど、状況に応じて機動的な対応を行った。

また、学内・学外における公益通報窓口の設置や、内部監査の実施時期の前倒しによる監査結果や改善結果の監査年度内における反映を図るなど、経営課題を各組織で共有し、継続的・機動的に対応している。限られた経営資源の下、学生、卒業生、教員や地域のニーズに対応し、柔軟に組織運営しているものと評価する。

##### (No.11) 人事の適正化【a：中期計画の達成状況は良好となる見込みである】

年間を通じた公募により、毎年度、全ての科目群に教員の適正配置が行われており、県内現役看護職者を特任講師として、専門看護師（CNS）養成課程の教育に活用するなど、教員人材確保への努力と成果は評価できる。

また、教員評価システムに基づき、業績評価及び業績による研究費の追加配分を行うことで処遇に反映させた。今後も教員評価システムの活用により、大学組織の活性化に資されたい。

事務局職員については、令和元年度に県行財政改革行動計画を踏まえたプロパー職員採用計画と、階層別研修・専門研修の2本柱からなる研修計画を策定し、これらの計画に基づき、プロパー職員を計画的に採用するとともに、職員体制の向上に向けて、計画的に研修の参加や事務局内異動を推進した結果、事務局の学生対応に関する学生満足度は、毎年度目標を上回り達成した。

## (No.12) 事務の効率化・合理化【a：中期計画の達成状況は良好となる見込みである】

定型業務など外部委託が可能な業務について、費用や効率性を検証したうえで、職員の事務負担軽減や受験生の出願時の負担軽減など検討を重ねながら、事務局のスケジュール管理システム（iQube）やWeb出願システム、出退勤管理・時間外勤務管理・休暇取得のシステム、クラウド型文字起こしサービス等を導入した。

また、職員の育児休業・私傷病休暇や業務量増加、多岐に渡る業務習得などの変化に対応するため、事務局内異動や臨時職員の身分の見直しを行い、併せて事務分掌の見直しや業務内容の共有を図り、柔軟な組織運営を行った。

期間を通して、各種システムの導入や手続きの見直しにより事務の効率化を図っていることは評価できる。引き続き、組織的な取組を期待する。

### 【参考】

#### 年度評価における「業務運営の改善及び効率化」に関する中期計画の進捗状況評価

R1	R2	R3	R4
A	A	A	A

(進捗状況評価基準)			
S：優れて順調、A：順調、B：概ね順調			
C：やや遅れている、D：遅れている			

#### 指標（数値目標）の進捗状況一覧

中項目	指標	目標値/実績値/達成度[達成率]				
		R1	R2	R3	R4	
(No.10) 運営体制の改善	No.23 業務改善率（監査指導等）	目標値	100%	100%	100%	100%
		実績値	指摘なし	指摘なし	100%	100%
		達成度	[-]	[-]	◎ [100%]	◎ [100%]
(No.11) 人事の適正化	No.19 教員が適正に配置されている科目群の割合	目標値	100%	100%	100%	100%
		実績値	100%	100%	100%	100%
		達成度	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]
	No.20 客員・特任教員の人数	目標値	10人	10人	10人	10人
		実績値	10人	10人	10人	10人
		達成度	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]
	No.21 任期制・年俸制を適用している教員の割合	目標値	13%	13%	13%	13%
		実績値	18.5%	15.7%	15.1%	13.7%
達成度	◎ [142.3%]	◎ [120.8%]	◎ [116.2%]	◎ [105.4%]		
No.22 事務局の対応学生満足度（5段階評価の上位2位の割合）	目標値	79%	79%	79%	79%	
	実績値	93.5%	85.8%	91.8%	88.9%	
	達成度	◎ [118.4%]	◎ [108.6%]	◎ [116.2%]	◎ [112.5%]	

\* 指標の達成度 = ◎達成（100%以上） ○概ね達成（80%以上～100%未満） △やや遅れている（60%以上～80%未満） ▲遅れている（60%未満）

## 大項目5 財務内容の改善に関する目標

### 評価結果

**B：中期目標の達成状況は『概ね良好』となる見込みである**

#### ア 評価理由

看護研究交流センターが企画・実施する看護職学習支援公開講座のオンライン化や、ニーズの高いコースの増設など、収入獲得とリカレント教育の拡充に向けて積極的に取り組んだといえる。

各種セミナーへの参加の推進や、他大学と共同による科研費説明会の実施など、研究資金獲得に向けた研究支援体制を整備しているが、外部研究資金比率は令和2年以降目標に達していない。

経費節減に向けて着実に取り組まれ、学生・来学者の安全確保や、感染症対策及び老朽化対策など、コスト削減を図りながら適切な資産の運用管理にも努めているところである。

これらの状況を総合的に評価し、財務内容の改善に関する目標の達成状況は、「概ね良好」と判断した。

今後も、外部研究資金の獲得や効率的な施設整備など、自己収入の増加に取り組まれない。

#### イ 中項目別評価結果

##### (No.13) 自己収入の増加【b：中期計画の達成状況は概ね良好となる見込みである】

看護研究交流センターが企画・実施する看護職学習支援公開講座のオンライン化や論文博士学位授与制度創設に伴う論文審査手数料の設定等、自己収入の増加に向けて積極的に取り組んでいる。特に、令和3年度に開始した看護職学習支援公開講座について、令和4年度にニーズの高かったコースを増設した結果、参加者数が増加するなど、収入獲得とリカレント教育の拡充に向けて積極的に取り組んだといえる。

各種セミナーへの参加の推進や、他大学と共同による科研費説明会の実施など、研究資金獲得に向けた研究支援体制を整備しているが、外部研究資金比率は令和2年以降目標に達していない。外部研究資金の獲得に向けて、着実に成果が上がるよう引き続き取り組まれない。

なお、自己収入比率は目標を達成している一方で、運営交付金の減少により計算上の分母が減少したことが要因であると考えられる。評価指標としての妥当性について、今後の検討課題としたい。

##### (No.14) 経費節減【b：中期計画の達成状況は概ね良好となる見込みである】

前期間中は随意契約をしていた電気契約について、令和元年12月から一般競争入札を行い経費節減に繋がったほか、光熱水費等の経費低減を目指し、教授会等で周知するなど意識の徹底を図った。また、随意契約においては、新たな業者を含めて複数業者からの見積合わせを行い価格の抑制を図るなど、経費節減に向けて着実に取り組まれているものと認められる。

**(No.15) 資産の運用管理の改善【a：中期計画の達成状況は良好となる見込みである】**

長期使用による経年劣化や運転に支障が生じてきた設備等について、適宜点検や業者との確認調整を行いながら、修繕や更新工事を行った。加えて、年度計画に含まれない緊急的措置として、トイレの洋式化や自動水栓化、遠隔授業の導入等に伴う全館 Wi-Fi 環境の整備などの感染症対策や、校舎玄関前広場のブロック舗装などの老朽化対策を実施した。その際、半導体不足を見越した修繕計画の見直しや、2つの工事を同時に行うことにより足場工事の経費を節約するなど、効率的に工事の実施を進めた。

学生・来学者の安全確保や、感染症対策及び老朽化対策等に対応した施設整備について、コスト削減を図りながら適切に実施したといえる。

**【参考】**

**年度評価における「財務内容の改善」に関する中期計画の進捗状況評価**

R1	R2	R3	R4
B	B	B	B

(進捗状況評価基準)

S：優れて順調、A：順調、B：概ね順調  
C：やや遅れている、D：遅れている

**指標（数値目標）の進捗状況一覧**

中項目	指標	目標値/実績値/達成度[達成率]				
		R1	R2	R3	R4	
(No.13) 自己収入の増加	No.24 自己収入比率 (自己収入/経常収益)	目標値	33%	33%	33%	33%
		実績値	33.4%	35.0%	36.6%	36.3%
	達成度	◎ [101.2%]	◎ [106.1%]	◎ [110.9%]	◎ [110.0%]	
	No.25 外部研究資金比率 (外部研究資金/経常収益)	目標値	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%
実績値		2.5%	1.6%	1.8%	1.9%	
		達成度	◎ [108.7%]	△ [69.6%]	△ [78.3%]	○ [82.6%]

\* 指標の達成度 = ◎達成 (100%以上) ○概ね達成 (80%以上~100%未満) △やや遅れている (60%以上~80%未満) ▲遅れている (60%未満)

## 大項目6 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する目標

### 評価結果

**B：中期目標の達成状況は『概ね良好』となる見込みである**

#### ア 評価理由

包括外部監査や認証評価の受審結果について、期間を通して改善の検討を重ね、全事項について改善が認められた。また、法人評価で指摘された課題・提言について、毎年度詳細に検討し、改善に繋げた。

入試広報等についてデジタル化及びオンライン化を進め、積極的に Web 発信を行うなど、大学のイメージ向上と学生確保に向けた情報提供を積み重ねた結果、期間を通してホームページのアクセス件数は高水準を維持しながら増加傾向にある。

これらの状況を総合的に判断した結果、自己点検・評価及び情報公開の推進に関する目標については、「概ね良好」となる見込みであると判断した。

今後も、外部評価機関等の評価結果の活用や大学のPRに繋がる積極的な情報発信など、自己点検・評価の実施や情報公開の推進について一層の改善に取り組まれない。

#### イ 中項目別評価結果

##### (No.16) 自己点検・評価の実施【a：中期計画の達成状況は良好となる見込みである】

教員評価システムにより、全教員が自己点検評価を実施し、毎年度優秀者に学長表彰を行った。

大学基準協会の平成29年度の認証評価において指摘された努力課題について、令和2年度に改善報告書を提出し、協会から改善を認めた旨の通知を受けた。

平成29年度の包括外部監査において指摘された事項について、期間を通して改善の検討を重ね、令和4年度に全事項について措置が認められた。

そのほか、法人評価で指摘された課題・提言について、毎年度真摯に取り組んだといえる。

##### (No.17) 情報公開の推進【b：中期計画の達成状況は概ね良好となる見込みである】

毎年度、教育研究活動、経営状況、業務評価結果などをホームページで逐次公表した。期間を通してホームページのアクセス件数は高水準を維持しながら増加傾向にある。特に令和3年度は、入試広報等について学内で細やかな工夫を重ねながらデジタル化及びオンライン化を進め、積極的に Web 発信を行うことで、目標値の2倍を超えた。利用者に大学の魅力がより伝わるようなホームページとなるよう、引き続き検討を重ねていただきたい。

**【参考】**

年度評価における「自己点検・評価及び情報公開の推進」に関する中期計画の進捗状況評価

R1	R2	R3	R4
B	B	B	B

(進捗状況評価基準)  
 S：優れて順調、A：順調、B：概ね順調  
 C：やや遅れている、D：遅れている

**指標（数値目標）の進捗状況一覧**

中項目	指 標	目標値/実績値/達成度[達成率]				
		R1	R2	R3	R4	
(No.16) 自己点検・評価の実施	No.26 自己点検・評価に基づく改善率	目標値	100%	100%	100%	100%
		実績値	指摘なし	指摘なし	指摘なし	指摘なし
		達成度	[-]	[-]	[-]	[-]
(No.17) 情報公開の推進	No.27 ホームページのアクセス件数	目標値	900,000件	900,000件	900,000件	900,000件
		実績値	1,047,141件	1,337,856件	2,205,373件	1,890,793件
		達成度	◎ [116.3%]	◎ [148.7%]	◎ [245.0%]	◎ [210.1%]

\* 指標の達成度 = ◎達成（100%以上） ○概ね達成（80%以上～100%未満） △やや遅れている（60%以上～80%未満） ▲遅れている（60%未満）

## 大項目7 その他業務運営に関する重要目標

### 評価結果

**B：中期目標の達成状況は『概ね良好』となる見込みである**

#### ア 評価理由

当該大学は上越市の指定緊急避難所に位置づけられており、感染症対策に配慮した避難スペースの拡大について要請を受けたことから、従来の2倍の人数分のスペースが提供できるよう支援体制を整備した。また、令和元年度に大雨特別警報が発令された際、避難者を受け入れて夜間の安全を確保した。加えて、令和4年度には、新型コロナウイルス疫学調査への教員派遣や、村上市・関川村豪雨災害における調整など、大学の特色を活かし、上越地域・県内での災害支援に関わったことは大いに評価できる。

施設整備について、第一期中期目標期間中に積み立てた積立金や、国の補助金等を活用し、感染症対策や地域ニーズにも対応すべくきめ細かく計画的に改修・更新を行った点は評価される。また、工事の実施時期や方法を工夫することにより経費削減に努めたことを評価する。

これらの実績を評価し、業務運営に関する目標については、「概ね良好」となる見込みであると判断した。

今後も、災害支援における地域連携やハラスメント対応体制の整備、情報セキュリティに係る対策強化など、継続的に取り組まれない。

#### イ 中項目別評価結果

##### (No.18) 法令遵守の推進【b：中期計画の達成状況は概ね良好となる見込みである】

学生については学内ガイダンスにおける啓発教育の実施、教職員については綱紀の保持及び服務規律の確保のための指針を周知するなどにより、学生や教職員が遵守すべき事柄について周知した。

研究費等の厳正な取扱いについて、令和2年度に会計ルールハンドブックを作成し、また公的研究費で購入した物品の現品管理をルール化したことについて、不正行為発生を牽制する組織風土を作るものとして評価できる。

##### (No.19) 施設の効率的整備【a：中期計画の達成状況は良好となる見込みである】

第一期中期目標期間中に積み立てた積立金や、国の補助金等を活用し、新型コロナウイルス感染症対策や地域への施設開放のニーズにも対応すべく、きめ細かく計画的に改修・更新を行った点は評価される。また、業者との調整により2件の工事を同時に施工することで大幅な経費節減に繋げるなど、工事の実施時期や方法を工夫することにより経費削減に努めたことを評価する。

また、大学全体の照明器具のLED化を計画的に進めることに加えて、節電・電気料金節約を進めるため、令和4年度には学内全照明器具の約3分の1に相当する廊下及び北口玄関通路照明のLED化工事を実施した。

今後も施設の老朽化対策やエネルギー物価高騰への対応が課題となるため、引き続き、施設整備計画を見直ししながら、効率的な設備等の更新を行っていただきたい。

### (No.20) 危機管理【s：中期計画の達成状況は優れたものとなる見込みである】

当該大学は上越市の指定緊急避難所に位置づけられており、令和2年度に感染症対策に配慮した避難スペースの拡大について上越市から要請を受け、従来の2倍の人数分のスペースが提供できるよう支援体制を整備し、令和3年度に協定を締結した。また、令和元年度に大雨特別警報が発令された際、避難者を受け入れて夜間の安全を確保するなど、地域の災害対応に大きく貢献した。

また、令和4年度には、本学が加盟する新潟県看護系大学等災害支援連絡協議会の会長校として、長岡保健所での新型コロナウイルス疫学調査に協力し、3名の教員を派遣した。また、同年の村上市・関川村豪雨災害においては、新潟県・会員校と連携して現地の保健相談活動の調整に関わるなど、大学の特色を活かし、県内での災害支援に関わったことは大いに評価できる。

今後、安否情報システムの更なる活用を期待する。また、災害支援については、平時からの関係性の構築により、連携体制をより充実させていきたい。

### (No.21) 人権の保護【b：中期計画の達成状況は概ね良好となる見込みである】

各種ハラスメントなどの人権侵害を防止するため、学年ガイダンスや新任教職員研修の際にリーフレットを配布し、大学の取組の周知や、相談体制の紹介を行った。また、外部講師による研修会の開催や、ハラスメント防止特別委員会の定期開催など、期間を通して継続的に人権教育を実施している。

教職員間だけでなく、学生と教員間や、実習先（施設職員や患者）と学生間など、ハラスメントの内容も広く多様化していることから、引き続き対応体制の整備や啓発活動を進めていきたい。

### (No.22) 情報セキュリティ対策【b：中期計画の達成状況は概ね良好となる見込みである】

USBメモリの紛失防止策のひとつとして、共有ドライブ内に領域別に利用できる専用フォルダを新設し、サイバーセキュリティ対策を強化したことで、複数の職員が情報の紛失なく情報共有することができるようにした。

情報セキュリティ対策に関する規程について「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群」等に則り、学内規程の見直し・策定を行った。また、電磁的記録媒体取扱要領の一部改正を行い、個人情報を保存した持ち出し可能な媒体の管理方法や持ち出す際の具体的な手続き等を定めた。

個人情報の流出を防ぐためにも、今後、情報セキュリティについてさらなる対策強化をされることを期待する。

### 【参考】

#### 年度評価における「その他業務運営」に関する中期計画の進捗状況評価

R1	R2	R3	R4
A	A	B	B

(進捗状況評価基準)

S：優れて順調、A：順調、B：概ね順調  
C：やや遅れている、D：遅れている

4 参考

公立大学法人新潟県立看護大学 中期計画(R1~R6)における指標(数値目標)の達成度一覧

大項目	中項目	指標	目標値/実績値/達成度[達成率]				最終目標値		
			R1	R2	R3	R4			
1 教育	(No.1) 学生の確保	No.2 志願倍率	目標値	4.3倍	4.3倍	4.3倍	4.3倍	4.3倍	
			実績値	4.1倍	3.1倍	8.3倍	3.8倍		
			達成度	○ [95.3%]	△ [72.1%]	◎ [193.0%]	○ [88.4%]		
	(No.3) 教育の実施体制	No.3 学生の授業内容満足度(5段階評価の平均)	目標値	4.2点	4.2点	4.2点	4.2点	4.2点	
			実績値	4.6点	4.3点	4.4点	4.5点		
			達成度	◎ [109.5%]	◎ [102.4%]	◎ [104.8%]	◎ [107.1%]		
	(No.4) 学生への支援	No.1 国家試験合格率 ※ ○概ね達成(全国平均値以上~100%未満) △やや遅れている(60%以上~全国平均未満)	看護師	目標値	100%	100%	100%	100%	100%
				実績値	100%	99.0%	100%	97.9%	
				達成度	◎ [100%]	○ [99.0%]	◎ [100%]	○ [97.9%]	
			保健師	目標値	100%	100%	100%	100%	100%
				実績値	96.4%	97.8%	97.5%	96.6%	
				達成度	○ [96.4%]	○ [97.8%]	○ [97.5%]	△ [96.6%]	
			助産師	目標値	100%	100%	100%	100%	100%
				実績値	100%	100%	100%	100%	
達成度				◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]		
No.4 就職希望者の就職率		目標値	100%	100%	100%	100%	100%		
	実績値	100%	98.9%	100%	100%				
	達成度	◎ [100%]	○ [98.9%]	◎ [100%]	◎ [100%]				
No.5 新卒者(全学)の県内就職率	目標値	69%	69%	69%	69%	69%			
	実績値	50.6%	66.7%	59.3%	63.7%				
	達成度	△ [73.3%]	○ [96.7%]	○ [85.9%]	○ [92.3%]				
No.5 新卒者(県内出身)の県内就職率	目標値	85%	85%	85%	85%	85%			
	実績値	61.1%	77.9%	68.7%	79.5%				
	達成度	△ [71.9%]	○ [91.6%]	○ [80.8%]	○ [93.5%]				
2 研究	(No.5) 研究水準及び成果等	No.6 著書件数	目標値	10件	10件	10件	10件	10件	
			実績値	7件	6件	12件	7件		
			達成度	△ [70.0%]	△ [60.0%]	◎ [120.0%]	△ [70.0%]		
		No.7 論文件数	目標値	72件	72件	72件	72件	72件	
			実績値	57件	49件	43件	48件		
			達成度	△ [79.2%]	△ [68.1%]	▲ [59.7%]	△ [66.7%]		
		No.7 論文(査読付き)件数	目標値	65件	65件	65件	65件	65件	
			実績値	51件	42件	37件	40件		
			達成度	△ [78.5%]	△ [64.6%]	▲ [56.9%]	△ [61.5%]		
		No.8 学会報告件数	目標値	123件	123件	123件	123件	123件	
	実績値		121件	97件	70件	84件			
	達成度		○ [98.4%]	△ [78.9%]	▲ [56.9%]	△ [68.3%]			
	No.9 論文の被引用件数等	目標値	33件	33件	33件	33件	33件		
		実績値	37件	70件	100件	91件			
達成度		◎ [112.1%]	◎ [212.1%]	◎ [303.0%]	◎ [275.8%]				
参考 大学における研究発表会の開催件数	目標値	4件	4件	4件	4件	4件			
	実績値	4件	1件	5件	5件				
	達成度	◎ [100.0%]	▲ [25.0%]	◎ [125.0%]	◎ [125.0%]				
(No.6) 研究実施体制の整備等	No.10 外部研究資金申請件数	目標値	35件	35件	35件	35件	35件		
		実績値	32件	26件	19件	17件			
	No.10 外部研究資金獲得件数	目標値	20件	20件	20件	20件	20件		
		実績値	21件	24件	29件	27件			
(No.7) 地域社会ニーズへの対応	No.11 公開講座(開催件数)	目標値	25回	25回	25回	25回	25回		
		実績値	21回	-	14回	16回			
		達成度	○ [84.0%]	[-]	▲ [56.0%]	△ [64.0%]			
	No.11 公開講座(聴講者数)	目標値	1,720人	1,720人	1,720人	1,720人	1,720人		
		実績値	1,685人	-	774人	805人			
		達成度	○ [98.0%]	[-]	▲ [45.0%]	▲ [46.8%]			
	No.11 公開講座(満足度)(5段階評価の上位2位の割合)	目標値	89%	89%	89%	89%	89%		
		実績値	88.8%	-	79.6%	84.4%			
		達成度	○ [99.8%]	[-]	○ [89.4%]	○ [94.8%]			
	No.15 マスメディアに取り上げられた件数(新聞掲載数)	目標値	210件	210件	210件	210件	210件		
実績値		281件	268件	226件	218件				
達成度		◎ [133.8%]	◎ [127.6%]	◎ [107.6%]	◎ [103.8%]				
No.12 看護職リカレント教育登録者数	目標値	19人	19人	19人	19人	19人(期間累計114人)			
	実績値	45人	4人	18人	26人				
	達成度	◎ [236.8%]	▲ [21.1%]	○ [94.7%]	◎ [136.8%]				
(No.8) 地域社会との連携	No.13 研究指導等講師派遣数	目標値	81人	81人	81人	81人	81人		
		実績値	95人	62人	67人	80人			
		達成度	◎ [117.3%]	△ [76.5%]	○ [82.7%]	○ [98.8%]			
	No.14 審議会等委員委嘱数	目標値	47人	47人	47人	47人	47人		
実績値		42人	43人	57人	49人				
達成度		○ [89.4%]	○ [91.5%]	◎ [121.3%]	◎ [104.3%]				
No.16 臨床現場・行政機関と人事交流を行う人数(2年以上の者)	目標値	1人	1人	1人	2人	3人			
	実績値	1人	1人	1人	2人				
	達成度	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]				
(No.9) 国際交流	No.17 海外大学との交流提携校数	目標値	調査検討	調査検討	調査検討	調査検討	3校		
		実績値	-	-	-	-			
		達成度	[-]	[-]	[-]	[-]			
	No.18 海外大学との交流人数(学生)	目標値	6人	6人	6人	6人	6人		
		実績値	2人	-	-	7人			
		達成度	▲ [33.3%]	[-]	[-]	◎ [116.7%]			
No.18 海外大学との交流人数(教員)	目標値	3人	3人	3人	3人	3人			
	実績値	2人	-	-	4人				
	達成度	△ [66.7%]	[-]	[-]	◎ [133.3%]				

公立大学法人新潟県立看護大学 中期計画(R1～R6)における指標(数値目標)の達成度一覧

大項目	中項目	指標	目標値/実績値/達成度[達成率]				最終目標値	
			R1	R2	R3	R4		
4 業務運営	(No.10) 運営体制の改善	No.23 業務改善率(監査指導等)	目標値	100%	100%	100%	100%	100%
			実績値	指摘なし	指摘なし	100%	100%	
			達成度	[-]	[-]	◎ [100%]	◎ [100%]	
	(No.11) 人事の適正化	No.19 教員が適正に配置されている科目群の割合	目標値	100%	100%	100%	100%	100%
			実績値	100%	100%	100%	100%	
			達成度	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	
		No.20 客員・特任教員の人数	目標値	10人	10人	10人	10人	10人
			実績値	10人	10人	10人	10人	
			達成度	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	
		No.21 任期制・年俸制を適用している教員の割合	目標値	13%	13%	13%	13%	13%
			実績値	18.5%	15.7%	15.1%	13.7%	
			達成度	◎ [142.3%]	◎ [120.8%]	◎ [116.2%]	◎ [105.4%]	
No.22 事務局の対応学生満足度(5段階評価の上位2位の割合)	目標値	79%	79%	79%	79%	79%		
	実績値	93.5%	85.8%	91.8%	88.9%			
	達成度	◎ [118.4%]	◎ [108.6%]	◎ [116.2%]	◎ [112.5%]			
5 財務	(No.13) 自己収入の増加	No.24 自己収入比率(自己収入/経常収益)	目標値	33%	33%	33%	33%	33%
			実績値	33.4%	35.0%	36.6%	36.3%	
			達成度	◎ [101.2%]	◎ [106.1%]	◎ [110.9%]	◎ [110.0%]	
	No.25 外部研究資金比率(外部研究資金/経常収益)	目標値	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%	
		実績値	2.5%	1.6%	1.8%	1.9%		
		達成度	◎ [108.7%]	△ [69.6%]	△ [78.3%]	○ [82.6%]		
6 自己点検	(No.16) 自己点検・評価の実施	No.26 自己点検・評価に基づく改善率	目標値	100%	100%	100%	100%	100%
			実績値	指摘なし	指摘なし	指摘なし	指摘なし	
			達成度	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(No.17) 情報公開の推進	No.27 ホームページのアクセス件数	目標値	900,000件	900,000件	900,000件	900,000件	900,000件
			実績値	1,047,141件	1,337,856件	2,205,373件	1,890,793件	
			達成度	◎ [116.3%]	◎ [148.7%]	◎ [245.0%]	◎ [210.1%]	

\* 指標の達成度 = ◎達成 (100%以上) ○概ね達成 (80%以上～100%未満) △やや遅れている (60%以上～80%未満) ▲遅れている (60%未満)

# 公立大学法人新潟県立看護大学の中期目標期間終了時見込業務実績評価 (中間評価) 実施要領

令和4年9月2日  
新潟県公立大学法人評価委員会

## 第1 趣旨

この要領は、地方独立行政法人法（以下「法」という。）第78条の2の規定及び当該規定に基づき定められた県規則（新潟県公立大学法人の業務運営並びに財務及び会計に関する規則）に基づき、新潟県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が行う公立大学法人新潟県立看護大学（以下「法人」という。）の中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標期間の業務実績に関する評価（以下「中間評価」という。）を適切に行うため、評価の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

## 第2 評価の目的

評価委員会が行う評価は、法人の業務運営の自主的かつ継続的な見直し・改善を促し、もって、法人の業務の質的向上、業務運営の効率化、透明性の確保に資することを目的として行う。

## 第3 評価の基本方針

中間評価は、中期目標の達成見込を確認する観点から行い、評価に当たっては、総合的かつ効率的に行うこととする。

なお、評価の際は、大学の教育研究の特性や大学運営の自主性・自律性に配慮するとともに、評価を通じて、法人の中期目標の達成状況の見込を県民に分かりやすく示すよう努めるものとする。

## 第4 中間評価の実施時期

中間評価は、当該中期目標期間の最後の事業年度の前々事業年度終了後、概ね5月以内に実施するものとする。

## 第5 中間評価の実施方法

### 1 評価手法

中間評価は、その目的を効率的かつ効果的に達成するため、業務実績見込に基づき法人が行う自己評価結果を踏まえ、項目別に評価の上、中期目標の達成見込について総合的な評価（全体評価）を行う。

### 2 評価項目

評価項目は、表1のとおりとする。

### 3 評価基準

評価にあたっては、表2の取扱いを基本に、取組状況や目標の難易度、外的要因等、それぞれの状況を総合的に勘案して評価するものとする。

なお、評価にあたっては、法第79条の規定に基づき、学校教育法（昭和22年法律第26号）第109条第2項に規定する認証評価機関の教育及び研究の状況についての評価を踏まえるものとする。

### 4 評価の手順

#### (1) 中項目別評価

##### ア 法人による実績報告

法人は、事業単位及び指標単位の業務実績見込（中期計画における各事業の実施状況及び事業の成果に関する指標の達成度）をとりまとめ、表1に定める中項目ごとに、3に定める評価基準に沿い自己評価の上、業務実績見込報告書を作成し、評価の実施時期の属する年度の6月末日までに評価委員会に提出する。

なお、指標の達成度の算定基準は、表3のとおりとする。ただし、指標の性質から、表3により達成度を算定しがたい指標については、表3-2によるものとする。

##### イ 評価委員会による検証・評価

評価委員会は、法人から提出された業務実績見込報告書について、法人関係者からのヒアリング等により検証の上、表1で定める中項目ごとに、3に定める評価基準により、評価する。

なお、評価委員会は、検証、評価を行う上で必要がある場合、法人に対して資料の追加提出を求めることができるものとする。

##### ウ 法人意見の聴取、申立て機会の付与

評価の透明性、正確性を確保するため、評価委員会は、法人の実績報告・自己評価に基づき実施した中項目評価について、評価結果の決定に先立ち、法人に評価結果案を提示し、意見申立ての機会を付与する。

なお、法人は、当該案に対する意見を、書面により評価委員会に申し出るものとする。

##### エ 評価の確定

評価委員会は、中項目別評価案に対する法人意見を踏まえ、必要に応じて法人関係者の説明を受けて当該意見の適否を審議し、当該案に修正を加える等により中項目別評価を確定する。

## (2) 大項目別評価

評価委員会は、(1)における中項目別評価結果を踏まえ、表1に定める大項目ごとに、3に定める評価基準により、中期目標の達成見込を総合的に勘案して評価する。

## (3) 全体評価

評価委員会は、項目別評価の結果を踏まえ、3に定める評価基準により、中期目標の全体的な達成見込を総合的に勘案して評価する。

## 第6 評価結果の取扱い等

### 1 評価結果の通知及び公表等

評価委員会は、評価結果を確定したときは、評価書としてとりまとめ、遅滞なく当該評価書を法人及び知事に送付するとともに新潟県ホームページ等で公表する。

### 2 評価結果の活用

法人は、評価結果を自らの業務運営等の見直し又は改善に活用・反映させていくものとする。

なお、評価委員会は、評価に際し、従前の評価結果等に対する法人の業務運営への活用・反映状況等を確認するものとする。

## 第7 評価方法の継続的な見直し

この要領については、中間評価の実施状況等を踏まえ、必要に応じて見直すものとする。

## 第8 その他

この要領に定めるもののほか、評価の実施に際して必要な事項は、評価委員会が別に定める。

### 附 則

この要領は、令和4年9月2日から施行する。

(表 1 : 中間評価における評価項目)

評価区分	全体評価	項目別評価		
		大項目別評価	中項目別評価	
評価対象	項目別評価を踏まえた、中期目標全体の進捗状況	中項目別評価を踏まえた、中期目標における次の7区分ごとの進捗状況	事業単位及び指標単位(小項目別)の業務実績を基に、法人が行う自己評価を踏まえた、中期計画における次の区分ごとの進捗状況	
			(中期計画)	
評価項目	中期目標全体	1 教育に関する目標 (中期目標 第2の1)	(1) 学生の確保	第1の1 (1)
			(2) 教育の内容	第1の1 (2)
			(3) 教育の実施体制	第1の1 (3)
			(4) 学生への支援	第1の1 (4)
		2 研究に関する目標 (中期目標 第2の2)	(1) 研究水準及び成果等	第1の2 (1)
			(2) 研究実施体制の整備等	第1の2 (2)
		3 地域貢献・国際交流に関する目標 (中期目標 第2の3)	(1) 地域社会ニーズへの対応	第1の3 (1)
			(2) 地域社会との連携	第1の3 (2)
			(3) 国際交流	第1の3 (3)
		4 業務運営の改善及び効率化に関する目標 (中期目標 第3)	(1) 運営体制の改善	第2の1
			(2) 人事の適正化	第2の2
			(3) 事務の効率化・合理化	第2の3
		5 財務内容の改善に関する目標 (中期目標 第4)	(1) 自己収入の増加	第3の1
			(2) 経費節減	第3の2
			(3) 資産の運用管理の改善	第3の3
		6 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する目標 (中期目標 第5)	(1) 自己点検・評価の実施	第4の1
			(2) 情報公開の推進	第4の2
		7 その他業務運営に関する重要目標 (中期目標 第6)	(1) 法令遵守の推進	第5の1
			(2) 施設の効率的整備	第5の2
			(3) 危機管理	第5の3
			(4) 人権の保護	第5の4
(5) 情報セキュリティ対策	第5の5			

※ 中期計画の第6から第10に係る実績については、全体評価の際に参考情報として用いる。

(表 2 : 中間評価における評価基準)

評価区分		評定	標 語	評価の目安
項目別評価	中項目別評価	s	中期計画の達成状況は優れたものとなる見込みである	特に優れる若しくは顕著な成果となる見込み
		a	中期計画の達成状況は良好となる見込みある	上回る若しくは十分な実施となる見込み
		b	中期計画の達成状況は概ね良好となる見込みである	実施する見込み
		c	中期計画の達成状況はやや不十分となる見込みである	下回る若しくは実施が不十分となる見込み
		d	中期計画の達成状況は不十分となる見込みであり、重大な改善事項がある	特に劣る若しくは未実施となる見込み
	大項目別評価	S	中期目標の達成状況は優れたものとなる見込みである	大項目（7区分）別に、中期目標の達成見込について、中項目別評価から総合的に勘案し、評価
		A	中期目標の達成状況は良好となる見込みである	
		B	中期目標の達成状況は概ね良好となる見込みである	
		C	中期目標の達成状況はやや不十分となる見込みである	
		D	中期目標の達成状況は不十分となる見込みであり、重大な改善事項がある	
全体評価		中期目標の達成状況は優れたものとなる見込みである	中期目標全体の達成見込について、項目別評価から総合的に勘案し、評価	
		中期目標の達成状況は良好となる見込みである		
		中期目標の達成状況は概ね良好となる見込みである		
		中期目標の達成状況はやや不十分となる見込みである		
		中期目標の達成状況は不十分となる見込みであり、重大な改善事項がある		

(表 3 : 指標の達成度の算定基準)

	符号	標 語	達成度の算定基準
指標の達成度	◎	達成	達成率 100%若しくは100%以上
	○	概ね達成	達成率 80%以上 100%未満
	△	やや遅れている	達成率 60%以上 80%未満
	▲	遅れている	達成率 60%未満

(表 3-2 : 実施要領第 5 の 4 (1)ア表 3 の基準を適用しない指標の達成度の算定基準)

指 標	符号	標 語	達成度の算定基準
「国家資格の取得率」の達成度 《参考：評価方法》 ・看護師合格率 ・保健師合格率 ・助産師合格率	◎	達成	合格率 100%
	○	概ね達成	合格率「直近の全国合格率平均値」以上 100%未満
	△	やや遅れている	合格率 80%以上「直近の全国合格率平均値」未満
	▲	遅れている	合格率 80%未満
「就職希望者の就職率」の達成度	◎	達成	就職率 100%
	○	概ね達成	就職率「直近の公立大学医療福祉系学部における就職希望者の就職率の全国平均値」以上 100%未満
	△	やや遅れている	就職率 80%以上「直近の公立大学医療福祉系学部における就職希望者の就職率の全国平均値」未満
	▲	遅れている	就職率 80%未満

## 新潟県公立大学法人評価委員会 看護大学部会委員

(五十音順・敬称略)

選出分野	氏 名	現 職
会計	かしろ さとこ <b>神代 聡子</b>	公認会計士・税理士
地域・経営	たかはし なおみ <b>高橋 直美</b>	株式会社上越化工機 代表取締役
教育・研究	<b>【委員長・部会長】</b> なりた いちえい <b>成田 一衛</b>	新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎研究センター 腎・膠原病内科学 教授
教育・研究	ひしぬま みちこ <b>菱沼 典子</b>	聖路加国際大学 名誉教授

